

祖父と父が築いたものを海外へ

大

和合金は1941年創業の銅合金メーカーです。祖父が創業して父が引き継ぎ、現在は3代目の私が社長をしています。

銅合金は、銅とほかの金属とを組み合わせることで、銅の特徴である高い熱伝導性などを持ちながら、それぞれの使用場面に最適な特徴を持つ金属をつくることができます。

用途は多く、自動車や船舶に使われたり、金型になったりもします。航空機やロケットにも使われるほか、現在は核融合発電関連にも製品を納めています。

私はもともと化学品メーカーで研究開発をしていました。大和合金はもともと兄が継ぐ予定で、名前の通り次男の私がか社を継ぐことは、私も家族も想定していませんでした。ただ、兄が別の道に進むことになり、私が継ぐしかないと感じ、30歳で大和合金に入社しました。

祖父が新材料を開発して独立、父がさらに材料開発や用途開発を進めて国内で

の拡販を進めました。3代目の私は新規事業への挑戦や、海外への販路拡大が役割だと考えています。

私たちは2008年から航空機関連の展示会に参加するようになりました。父はこういった展示会にはそれほど前向きではなかったのですが、実績がない会社は参加するしか道がないと考えて、国内外の展示会に参加し続けました。

というのも、直前に国内の航空会社とのやり取りの中で海外メーカー製の製品の品質について知る機会があり、「これなら自分たちも世界で勝負できる」と感じたのがきっかけです。結果としてドイツの大手航空機部品メーカーに認められて輸出货量が急増し、大和合金の主力事業の1つに成長しました。定期的に交換する必要がある部品のため、一度採用されれば長期的な需要が見込めます。

国内外の市場開拓が進み、企業だけでなく研究機関や防衛省などからの仕事も増えています。おかげさまで社長就任時

の13年に37億円ほどだった売上高は23年には91億円を超え、経常利益14億円を上げることができています。

3世代社員をつくりたい

ほかに私の代になって変えたことといえば、年配社員の待遇があります。もともとは60歳から65歳にかけて、賃金が徐々に減っていく制度でした。それを5歳後ろ倒しにして、65歳までは賃金が下がらないように変えました。当初父からは「そんなことをしたら会社が維持できない」と反対されましたが、粘り強くやり取りをして、最終的には納得してくれました。現在も70歳以上の社員が6人、働き続けてくれています。

また、基本的には社員の紹介で採用しているのですが、社内は親子や兄弟、夫婦など、家族で働いている人たちがたくさんいます。創業100周年を迎えるころには、3世代で働く社員がいてくれるような会社になりたいと思っています。

はぎの・げんじろう
1968年東京都生まれ。上智大学大学院修了後、花王を経て99年に大和合金に入社。2012年から現職



大和合金

萩野源次郎 社長